

答 辞

たびだちぬはるに 花よ眺めれば 懐かしや日々の 思ひ

まさる
増さる

本日は、私たち卒業生のために、盛大な式典をご用意していただき、誠にありがとうございます。大城学長をはじめ、ご多忙の中、ご出席くださいました皆様に、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

振り返れば、私が入学したのは今から四年前。これから始まる大学での生活に期待と不安を抱きながら、この場所で入学式に臨んだことを、つい先日のことのように思い出します。

入学当初は、高校の授業とのギャップに戸惑うことも多くありましたが、大学での講義は単に知識を得る場だけでなく、多くの人々との出会いの場でもあり、良いご縁に恵まれながら、充実した日々を過ごすことができました。個性豊かで、各々の夢や目標に向かって突き進んでいる学生や、学識豊かに、様々な分野で活

躍されている先生方との出会いは、非常に刺激的で、私にとってかけがえのない財産となりました。

また、その中で出会えた友人たちは、楽しい時も辛い時も私の心の支えになってくれました。夜の更けるまで互いの将来について語り合ったり、戯言を言ったり笑い合ったりした日々が鮮明に思い出されます。大学での研究に関することからプライベートに関することまで腹を割って話すことのできる友人に出逢えたことはこの上ない仕合せです。

そして、先生方には研究面をはじめ、様々な場面でお世話になりました。私の所属した研究室の先生は、学生に対しあまり多くのことを語らず、ご助言も簡潔にされる方ですが、頂いたお言葉の一つひとつを振り返る度に、新たな発見があり、研究を進める上で重要な道標となりました。

また、民俗学の授業の一環として行った粟国島でのフィールドワークは、貴重な経験になりました。地域の人々に対するインタビューでは、過疎化をはじめ、従来の生業や慣習、宗教観の急速な変化に直面する人々の苦悩や葛藤があることを身にしみて実感しました。

このような地域の現状や個々人の境遇に接するにつけ、私の調査・研究は果たして、どのようにこうした地域の人々の役に立つことができるのかと思いを致すこともありました。

研究成果を地域社会に還元することは極めて重要ですが、すぐに実践し成果をあげることが容易ではありません。けれども、琉球大学で培った自由な発想や寛容な精神は、これから社会に出る私たちにとって重要な指針となるはずです。そして、琉球大学で学んだことが、いつの日か誰かの役に立つと信じ歩んでまいります。

これまでの学生生活は、私たちに素晴らしい出会いと実り多き時間を授けてくれました。これから進む道はそれぞれですが、ここで学んだことを今後の人生の糧とし、琉球大学の誇りを胸に、各々の未来を切り開いてまいります。

最後になりますが、未熟な私たちに温かい励ましとご指導をくださいました先生方、学生生活を多方面から支えていただいた職員の皆様に改めて御礼申し上げます。また、今日まで私たちの成長を見守り続けてくれ

た家族に深く感謝の意を表します。そして、琉球大学のさらなる発展と、ご出席いただきました皆さまのご多幸を祈念いたしまして、答辞とさせていただきます。

平成三十一年三月二十日

卒業生代表

法文学部 国際言語文化学科

琉球アジア文化専攻

伊良波 賢弥